



日本遺産「国境の島 壱岐・対馬・五島 ～古代からの架け橋～」

日本遺産認定10周年

日本遺産 国境の島 壱岐・対馬・五島 ～古代からの架け橋～ 構成文化財一覧表

《対馬市》

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ
1	かねだじょうあと 金田城跡	国特別史跡	唐や新羅の日本進攻を防ぐ目的で築かれた朝鮮式山城跡。山深い城山の頂からは、1300年以上前に防人が見つめていた国境の海が一望できる。
2	つしま きぼくしゅうぞく 対馬の亀卜習俗	国選択 無形民俗	亀の甲を焼き、ひび割れで年の吉凶を占う。大陸から朝鮮半島を経て伝わったといわれ、古くは壱岐や伊豆でも行われていたが、今では対馬のみで傳承されている。現在、亀卜は旧暦1月3日のサンゾーロー祭（市無形）で行われている。
3	つ つ あかごめぎょうじ 豆殿の赤米行事	国選択 無形民俗	豆殿地区は、大陸から稲作が伝わった地といわれており、古くから、赤米を祀り、栽培する行事が行われている。
4	つしまはんしゅそうけぼしよ 対馬藩主宗家墓所	国史跡	江戸時代、朝鮮半島との外交・貿易の実務を担った対馬藩宗家の菩提寺「万松院」として市民に親しまれ、百雁木（ひやくがんぎ）と呼ばれる132段の石段や杉が立ち並び、壮大な墓地と墓石が、朝鮮貿易の興隆を反映している。
5	ばんしょういん みつぐそく 万松院の三具足	市有形	朝鮮との緊密さがわかる朝鮮国から贈られた青銅製の祭礼用三具足（香炉、燭台、花瓶）で、万松院の本堂にある。
6	どうぞうによらいざぞう 銅造如来坐像 くろせかんのんどう (黒瀬観音堂)	国重文	統一新羅時代（8世紀）のもので、朝鮮半島経由で伝わったとされる。地元では、女神（おんながみ）さまといわれ、安産の神様としても信仰されている。

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ
7	しみずやまじょうあと 清水山城跡	国史跡	豊臣秀吉が朝鮮出兵の際に築かせたとされる駅城で、一の丸から三の丸まであり、遺構もよく残っている。
8	かねいしじょうあと 金石城跡	国史跡	対馬藩宗家の居城跡とその庭園。ここで朝鮮通信使一行を出迎えたといわれている。
9	きゅうかねいしじょううていえん 旧金石城庭園	国名勝	
10	ちょうせんこくしんしえまき 朝鮮国信使絵巻	県有形	朝鮮通信使の行列の様子を色彩豊かに描いており、当時の姿を彷彿とさせる。
11	つしまはん ふなえあと 対馬藩お船江跡	県史跡	対馬藩の藩船を格納、係留したドック跡。朝鮮貿易を担う対馬藩にとって、船は重要な交通手段であり、ここから釜山など各方面へと航海に出た。
12	佐須奈港 (佐須奈日向改番所跡)	未指定	朝鮮往還の玄関口として古代より栄えた良港で、朝鮮通信使上陸の地である。江戸時代には対馬藩主宗義真により日向と陰の2カ所の改番所が設置され、密航者や密貿易の取り締まりが行われた。日向番所は石垣や井戸が現在でも残存し、当時をしのばせる。また、この地より「孝行芋」(サツマイモ)が朝鮮半島に伝わったともいわれている。
13	鱒浦 (朝鮮通信使寄港地、ヒトツバタゴ自生地)	未指定 (ヒトツバタゴ自生地は国天然記念物)	古くより朝鮮半島との通交貿易の窓口となった朝鮮通信使上陸地の一つ。港の西側には朝鮮通信使の停泊地といわれる矢櫃があり、現在でもその石積を見ることができる。古代より大陸への窓口であった対馬を象徴する大陸系植物、ヒトツバタゴ自生地でもある。

《壱岐市》

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ
1	はる つじいせき 原の辻遺跡	国特別史跡	弥生時代の環濠集落跡で、『魏志倭人伝』に記された一支国の王都。弥生時代、海外交易の拠点として大いに栄えた。
2	ながさきけんはる つじいせき 長崎県原の辻遺跡 しゅつどひん 出土品	国重文	朝鮮半島系土器など交流・交易を物語る遺物が多く出土している。

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ
3	い き こ ふ ん ぐ ん 壱岐古墳群	国史跡	6世紀後半から7世紀前半に築造された古墳群。首長クラスの古墳の石室からは、大陸や朝鮮半島の国々から認められていたことを物語る多くの遺物が発見されており、それらの国々と精通した有力者の存在がわかる。
4	ながさきけんささづかこふん 長崎県笹塚古墳 しゅつどひん 出土品	国重文	亀形飾金具・杏葉・雲珠などの金銅製の馬具類が出土しており、朝鮮半島系の外来土器、鳳凰を表現した環頭大刀柄頭は韓国の古墳からも同形の柄頭が出土されるなど、交易・交流が活発であったことを物語っている。
5	ながさきけんそうろくこふん 長崎県双六古墳 しゅつどひん 出土品	国重文	
6	かつもとじょうあと 勝本城跡	国史跡	豊臣秀吉が朝鮮出兵の際に築かせたとされる駅城。本丸を取り囲む石垣と、本丸への出入り口部分が残っており、天気がいい日には、彼方の対馬を望むことができる。
7	うちめわん 内海湾	未指定	一支国と大陸を行き交う古代船が湾に停泊し、小舟に乗り換えて人や物を原の辻へ運んでいた。内海湾に浮かぶ小島は、現在、神が宿る島と呼ばれている。
8	たけ つじ 岳ノ辻	未指定	壱岐の最高峰(212.8m)で、島全体の3/4を見渡すことができ、古代から防衛の拠点で、烽火台があったといわれている。
9	いせき カラカミ遺跡	市史跡	弥生時代の環濠集落跡。交易を通じて鉄製品や鉄素材等を入手し、国内各地に鉄製品を供給する中継基地で、弥生時代を代表する鉄器生産の鍛冶工房でもあったこの地は、東アジア交易で重要な役割を果たしていた。
10	なまいけじょうあと 生池城跡	市史跡	16世紀中頃松浦党の源壱(みなものいち)が築いた山城。朝鮮や中国沿岸で私貿易を行った倭寇の一人であったが、後に朝鮮から貿易許可書である凶書を受け、正式に貿易を行った。

《五島市》

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ
1	三井楽(みみらくのしま)	国名勝	五島市三井楽町の海岸域及び海域。日本最西端である五島は、遣唐使船の最終寄港地であるとともに、「亡き人に逢える島」「異国との境界にある島」ともいわれている。

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ
2	みょうじょういんほんどう 明星院本堂	県有形	五島で最も古い寺といわれ、空海が唐から帰朝する途中でこの寺に籠り、明星院と名付けたといわれている。
3	ともづな石	市史跡	五島市岐宿町の白石湾は、古来遣唐使船が最後に停泊した港であり、遣唐使船を繋いだという「ともづな石」が安置・祀られている。
4	だいほうじ 大宝寺	未指定 (建造物)	唐から帰国した空海がここで真言密教を説いたという伝承があることから「西の高野山」ともいわれている。日本の一番西に位置し中国に近い玉之浦のこの寺には、関西や大陸との交流を物語る南北朝時代の五重の層塔（市有形）や梵鐘（県有形）が保存されている。

《新上五島町》

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ
1	ひのしま せきとうぐん 日島の石塔群	県史跡	40 基以上の墓碑・墓石がある中世古墓群。大陸との交易品を若狭湾に運び、帰りの船にバラストとして日引石の石塔を持ち帰ったともいわれ、海上交易の拠点だったと考えられている。
2	けんとうししせき 遣唐使史跡 ひめじんじゃあと いし (姫神社跡、ともじり石、 ひめじんじゃ きんぼ せ 姫神社、錦帆瀬、 みかのうら みふねさま 三日ノ浦、御船様)	未指定 (御船様は町指定)	新上五島町には、遣唐使が風待ちをした場所や、航海安全を祈願した神社等が点在し、大陸との交流の足跡がみられる。
3	最澄ゆかりの山王信仰 (山王山、青方神社)	未指定	山王山は、最澄が遣唐使の航海安全を祈願し、無事帰国後、山王神を勧進し開いたといわれ、中腹にある二ノ宮の岩窟内には中世以降、鏡が奉納され、その中には宋代の船載鏡があり、大陸との交流の足跡がみられる。 青方神社は古名を山王宮と称し、山王山の遥拝所であったといわれている。